

## 事前質問への回答

事前質問へのご協力ありがとうございました。

お寄せいただきましたご質問と、それに対する回答については、下記のとおりです。

### 質問１ 資料１

項目２１「相談事案の終結条件の定め」について、市町村指標・センター指標ともに「×」となっているが、なぜか。

警察や児童相談所などでは、「相談は受けていたが介入判断に至らなかった」、「一度相談は受けたが、緊急性がないと判断した」、「担当者が変わり引き継ぎが適切になされていなかった」などの理由から、適切な相談対応、終結に向けた対応を行わず放置し、痛ましい結果を招く事件の報告が後を絶たない。

相談事案に対する「介入・対応の要否」の判断、「終結の判断」においては、個人の判断では行わず、組織として共通の明確な評価尺度と、決裁判断の責任の明確化が必要であると考えるが、現状項目２１について、どのようなことが課題となっているのでしょうか。

今後の方向性・進捗をお聞かせください。

回答１ 終結条件は個々の案件により異なることから、画一的な終結条件を定めず個別に対応しており、終結条件は定めておりません。各課題については放置することなく、終結に向けて必要な環境が整うことを確認するなど、しかるべき対応を取っており、都度方向性について各地域包括支援センターと共有しております。

### 質問２ 資料１１－２

「包括支援センター活動報告」についてお伺いします。

困難ケース対応（実件数）、及び包括的・継続的ケアマネジメント事業における「困難事例への指導助言」において、小川ホームの対応件数が他の包括に比べ多いように見受けられるが、何か理由があるのでしょうか。

逆に他の包括の報告件数が少ないのでしょうか？

他の包括とのいわゆる「困難ケース」への評価尺度は同じと考えて良いのでしょうか。

回答２ 「困難ケース」の捉え方について、各地域包括支援センターで異なる部分もあり、小川ホームでは、ケアマネジャーからの相談事例を細かく件数に含めていたことも考えられることから、今後市内全地域包括支援センターとその尺度について協議し、足並みを揃えてまいります。